

中目黒駅周辺地区整備計画改定素案について

1 改定の経緯等

中目黒駅周辺地区では、上目黒一丁目及び二丁目の市街地再開発事業や東急東横線と副都心線との相互乗り入れがなされるとともに、環状六号線の拡幅整備事業などが進められ、商業・業務機能の集積が進んでいる。区は、平成23年3月に中目黒駅周辺地区整備構想（以下「整備構想」とする。）を改定、平成25年3月に中目黒駅周辺地区整備計画（以下「整備計画」とする。）を策定して、計画的な取組を進めてきた。

その後も「中目黒高架下」が開業し、更に平成31年4月の東京音楽大学の開校や、東京高等・地方裁判所中目黒分室（仮称）の建設予定など、動的で広がりのある街の変化が予想される。また、その使われ方にも様々な変化が起きており、こだわりの店舗や最先端のカルチャーなど多種多様なコンテンツが創出發信されることにより、時代の流れに敏感な人たちが集う街への変化が見られる。一方、住環境の面においても、民間調査などで、快適で便利、安全・安心な住みたい街として、高い評価を得ている。

このような状況を踏まえ、街の変化や地域特性を的確に捉えながら今後のまちづくりの方向性を示すとともに、地域の主体的な取組を推進することが求められていることから、区は、平成29年度より整備計画の改定に向けた取組を行ってきた。平成29年度は、来街者アンケートや地区内関係者ヒアリングなどまちづくりに関わる状況を把握するための各種調査を行った。これらを踏まえ、このたび平成31年1月の整備計画の改定に向けて、素案をとりまとめた。

2 改定素案について

【資料】【参考資料1】

(1) 整備計画の改定の位置づけ

改定にあたっては、「整備構想など上位計画との整合性」「地区の特性や今後の課題の整理」「区民・事業者・区による連携」の視点とともに、方向性をとりまとめるため、改定のポイントを以下の通りとした。

- ①地域関係者等の意向をきめ細やかに反映
- ②ソフト分野の充実
- ③周辺地域との連携と幅広い情報発信

(2) 地区の特性と課題

【参考資料2】

地区の特性や課題を整理するにあたって、上位・関連計画の整理や各課データの分析とともに、平成29年度に実施した店舗・事業所の分布や滞在者の動向の調査、住民・来街者・地域の関係者へのヒアリング等を含む、実態把握のための調査の結果を踏まえて行った。

(3) 将来像実現のための街づくりの考え方

整備構想に示した地区の将来像を踏まえつつ、様々な環境変化や将来動向も見すえ、中目黒駅周辺地区のこれからの街づくりのテーマを「創造的コミュニケーションがあふれるまち」と設定した。

また、地区内の5つのエリア（①駅前エリア ②駅南口側エリア ③山手通りエリア ④目黒川エリア ⑤住宅市街地エリア）ごとに街づくりの方向性を整理した。

(4) 推進施策

地区内の課題の整理を行った上で、以下のとおり推進施策をとりまとめた。

- ①多様な”中目黒らしさ”が感じられる街へ (街並み・環境)
- ②誰もが安全で安心できる街へ (暮らし・防犯・防災)
- ③ゆったりまち歩きが楽しめる街へ (交通ネットワーク)
- ④もっと居たくなる、また来たくなる街へ (活動・情報)
- ⑤新しい文化交流が生まれる街へ (文化・芸術)
- ⑥創造的コミュニケーションが生まれる街へ (街づくり活動)

また、整備スケジュールとして、事業内容、取組主体、スケジュールを掲載した。

(5) 本計画の推進体制

本計画の推進にあたっては、区民、事業者、区がそれぞれの役割を担い、連携を図ることが必要となることから、意見交換する場を設けるなど、相互に協力しながら、それぞれが主体的に街づくりに取組んでいく。

3 改定計画期間

本計画改定については、当初より平成30年度事業を施策として含む計画改定として平成29年度より進めてきたことから、計画期間は平成30年度(2018年度)から平成39年度(2027年度)までの10年間とする。

ただし、必要に応じて適時見直しを図る。

4 今後の予定

本計画は、平成30年度事業を施策として含む計画改定としているため、策定期期を平成31年1月として進める。

平成30年	11月	5日	地元説明会
		11月14日まで	整備計画素案 区民意見の募集
		11月 下旬	整備計画案のとりまとめ
平成31年	1月		整備計画改定

以 上